『境界研究』No. 12（2022）pp. 127–142

［ 特集：ウポポイの／での研究 ］

【資料紹介】

ウポポイと報道

―― 道内新聞を中心とした内外発信における類似と相違分析に向けて ――

是 澤 櫻 子、マーク・ウィンチェスター

1．経緯

本稿は、民族共生象徴空間（以下、ウポポイ）に関する2016年5月から2021年7月までの約六年間の北海道内の新聞記事を一覧化し、その一部を資料表として提示するものである。

民族共生の象徴となる空間整備が日本政府による具体的な政策方針として初めて提案されたのは2009年であった。同空間の基本方針は2014年に閣議決定され、2016年に中核施設となる国立アイヌ民族博物館の展示構成が初めて公表された。この2016年以降、様々な声がマスコミに寄せられてきた。また、ウポポイ自体も2020年7月12日の開業以降、様々な情報を発信してきた。それらの報道を通したウポポイの評価とウポポイで働く職員たちが発信してきたメッセージにはどのような類似点と相違点があるのだろうか。ウポポイに関する情報が多様な立場（アイヌ民族当事者、地元住民、商業関係者、政府関係者、報道関係者など）から発せられてきたが、それらは情報媒体の地域的な偏りなどがあり、体系的な分析は未だ試みられていない。このような分析のためには、情報の把握と整理が必須な課題である。本稿で紹介する資料表は、北海道内の新聞記事（以下、道内記事）での報道から分かるウポポイの活動とウポポイに寄せられた意見を整理し、それらの意見とウポポイの職員が発信してきたメッセージや職員の立場から指摘できることとに、どのような類似と相違があるのかを明らかにするための第一歩として提示するものである。このような整理の作業には、ウポポイ開業直後の新聞記事の言説を資料として残し、ウポポイの施設としての方向性を再考できるという意義があると筆者らは考える。

なお、筆者らは2020年4月からアソシエイトフェローとして国立アイヌ民族博物館の研究学芸部で働きはじめ、内外から寄せられる様々な意見を目の当たりにしながら日々の業務に取り組んできた。展示室に立って来館者から直接意見を寄せられる場合もあれば、SNSを含めたウポポイ関連の報道を通して利用者のウポポイに対するイメージと、職員が展示を通して発信したいメッセージとのズレを感じる場面も多々あった。従来のウポポイ

DOI : 10.14943/jbr.12.127

に関する言説を整理し、分析する必要性を感じたという現場の問題意識も本資料表作成の一つの動機となっている。

２．方法

本資料表は、北海道新聞、苫小牧民報、室蘭民報を主な対象とし、国立アイヌ民族博物館の名称が決定した2016年5月から2021年の7月末の約六年間を抽出対象時期の基本とし、約750件の記事を一覧化した。本稿にはその一部を掲載した。

新聞記事の抽出の際に考慮に入れたのは、①開業前と開業後の報道傾向の比較をするために大別できる時事関係の記事、②ウポポイについて抱かれた期待や懸念、ウポポイの活動の評価に関する記事、③ウポポイの職員が発信したウポポイの活動に関する記事である。これらの基準に基づき、約750件の記事を抽出し、「①ウポポイの活動に関する報道記事(開業前215件、開業後339件)」、「②ウポポイについて利用者から寄せられた意見(開業前77件、開業後26件)」、「③ウポポイ職員が発信した／発信に携わった記事(開業前30件、開業後67件)」に分類した。なお、ここで述べた開業前とは、2016年5月の国立アイヌ民族博物館の名称が決定した時期から2020年7月11日の開業日前日までの記事を指している。また、②③は新聞記事以外にも雑誌や論文、ネットニュース記事など筆者らが特記すべきと見なしたものに関しては媒体が分かるよう表に加えてある。今回は紙面のページ数の都合上、③のみ「表２」として掲載する。①②については、本稿では現時点で分かった部分的な傾向を述べるに留めるが、資料は北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター『境界研究』12号の掲載ホームページにアップロードする予定である。

本稿が道内新聞を対象に資料表を作成する理由についても述べておく。一つは、新聞は特定分野のトピックに関する情報を継続的に発信するメディアであり、速報性があるため、言説を時系列的に把握するのに適していると考えるからである。また、地域新聞は当該地域の関心や出来事、経験を反映する民主主義的なメディアであるべきだと、しばしば理念として挙げられることがある。しかし、「提供されるコミュニケーション媒体と、受動的ではあるが比較的に消極的な公衆との関係」は、ある時事に関する言説の構成過程において重要な役割を果たしていると考える(1)。インターネットの普及などにより、地域に限定した道内新聞のような情報媒体がインターネットを通して本来の到達範囲を遥かに超えて多数の読者に届いている現状があり、それらは全国に暮らしているアイヌ民族にも地方新聞の記事が地域を超えて共有される理由の一つになっていると考えられる。先住民族コミュニティにおけるSNSを含むインターネットの普及が果たす役割と影響も、今後の重要な分析課題であると考える。

(1) Stuart Hall and Paddy Whannel, *The Popular Arts* (Durham & London: Duke University Press, 2018(1964)), p. 229.

3．記事の傾向

3.1. 国立アイヌ民族博物館の展示に関する報道

本稿には一覧表を掲載していないが、①ウポポイの活動に関する報道記事、②ウポポイについて利用者から寄せられた意見に関する記事について、現時点で分かった部分的な傾向を述べる。特に①は2020年7月12日(開業後)から2021年7月末までの傾向、②は開業前後の傾向について述べる。

①について、開業後の国立アイヌ民族博物館の活動に関する記事の傾向をまとめると、展示やイベントなどの告知記事に加え、基本展示室の同化政策に関する展示の少なさや、SNSなどによる差別投稿や差別発言への対応について報道するものが多いことが分かる。まず展示の告知について、開館から2021年7月まで、国立アイヌ民族博物館では基本展示室の常設展示に加え下記の特別展示やテーマ展示などを行ってきた(表1)。これら特別展示、テーマ展示に関する記事は、展示の趣旨や開催期間などを伝えるのが主目的のイベント告知の記事がほとんどで、展示のコンセプトや注目資料を紹介する連載記事などはあるが、展示全体の総合的な評価はあまり行われていなかった。

一方、基本展示室については、開館当初から差別を伝える展示の少なさが指摘されていた[(2)]。加えて、SNSなどの差別投稿の増加やテレビ放送の差別発言を受け、「社会教育機関」

表1　開館から2021年7月までに行われた特別展示・テーマ展示・ロビー展示

	展示名	期間
2F特別展示室	開館記念特別展「サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化 ～アイヌ文化を未来へつなぐ～」[(3)]	2020年7月12日～11月8日
	第一回テーマ展示「収蔵資料展 イコロ――資料に見る素材と技――」[(4)]	2020年12月1日～2021年5月23日
	第二回特別展示「ゴールデンカムイ トゥラノ アプカシアン ――杉元佐一とアシリパが旅する世界――」[(5)]	2021年7月3日～8月22日
1F	第一回エントランスロビー展示「国立アイヌ民族博物館2020」	2020年7月12日～
	第二回エントランスロビー展示「アイヌ文化に興味を持った人に読んでほしいマンガ！特集」	2021年6月26日～

出典：筆者作成

(2)「ウポポイきょう開業　歴史伝承　模索なお」『北海道新聞』2020年7月12日。

(3) 開館記念特別展「サスイシリ 私たちが受け継ぐ文化 ～アイヌ文化を未来へつなぐ～」は、アイヌ民族を取り巻く社会環境が大きく変化した近代以降、多様化した文化継承の形を伝えたものである。「サスイシリ」はアイヌ語で「永遠」を意味する。特に「民具の継承」、「アイヌ語の継承」、「芸能の継承」、「現在の継承者」、「現

としてのウポポイの役割の大きさと歴史展示の強化を求める主張が取り上げられるようになった。特に2020年9月頃はウポポイに対する差別投稿を取り上げる記事が増加した。とりあげられた差別投稿は、ウポポイのプログラムや展示に対して「偽物」「捏造」「利権」などのワードを使って中傷するものであった。特に現代の要素を取り入れ演出した作品や現代的な要素が入った展示物の写真が一部分のみ切り取られて拡散され、差別投稿の対象になっていた。これらの投稿に関する報道記事は、「投稿の根拠がない」ことを強調しており、投稿の削除など費用・時間面で負担が大きいため、国に厳正な対処を求める意見が目立つ(6)。これとの関連で、アイヌ民族文化財団は2020年7月末に報道機関などへの取材申込書に「アイヌ施策推進法に基づき、差別的な内容を含む取材・発表等はお断りします」という文言を追加した。また、2020年10月12日に国立アイヌ民族博物館のホームページに掲載された「よくある質問」は、ネットや電話によるウポポイ、アイヌ民族への誹謗中傷を受けて博物館としてのスタンスを示すために掲載されたものだと報道されている(7)。

2021年3月12日には、朝の報道番組でアイヌ民族への差別発言があった(8)。この件については官房長官もテレビ局へ抗議をし、同局の会長が謝罪をした。本件を受けて、白老アイヌ協会は同年3月31日、国立アイヌ民族博物館に歴史展示の役割を強化する要望書を提出した。この要望書について報じた記事は、同事件を受けて、アイヌ民族に対する社会的な理解が進んでいない現状を感じての行動だったとし、社会教育機関としての国立アイヌ民族博物館の役割の大きさを指摘した(9)。

代の匠〜優秀工芸師」をテーマに、継承されてきた技術や感性を現在活躍中の作家や担い手を中心に、個人や団体に焦点をあてて紹介した。

(4) 第一回テーマ展示「収蔵資料展 イコロ ――資料に見る素材と技――」は資料の素材と技をテーマに、センカキ・アットゥシ（木綿・樹皮）、シキナ（ガマ）、ウッシ（漆）、カニ（金属）、カンピ（紙）をテーマに、資料に用いられた素材と技を紹介する展示である。特にエックス線コンピューター断層撮影装置（CT）などを使ってアイヌ民族が使ってきたござなどを撮影し展開した画像を紹介した他、糸のかけ方や結び方、材料の並べ方などこれまで分からなかった細部を科学装置により分析し、伝統的な技術の復元につながる研究の一端を展示した。「イコロ」はアイヌ語で「宝」を意味する。

(5) 第二回特別展示「ゴールデンカムイ トゥラノ アㇷ゚カシアン ――杉元佐一とアシリパが旅する世界――」は漫画『ゴールデンカムイ』（野田サトル作）の原作内容を中心に、伝統的なアイヌ料理や動植物との関わり、当時のコタン（村）の生活などに関連する民具資料を原画とともに展示した。

(6)「ウポポイ　ネット差別急増」『北海道新聞』2020年9月2日朝刊；「ウポポイ批判　根拠なきは認められぬ」『北海道新聞』2020年9月3日朝刊；「ウポポイへの攻撃」『北海道新聞』2020年9月22日朝刊；「紙面モニター調査から　ウポポイ ネット差別　根拠のなさ 分かりやすく」『北海道新聞』2020年9月23日朝刊。

(7)「ウポポイ発信強化　中傷相次ぎ　HPに解説文」『北海道新聞』2020年10月19日朝刊；「HPで情報発信強化　ネットや電話　相次ぐ中傷受け」『苫小牧民報』2020年10月29日。

(8)「『怒りで震える』 道内関係者」『北海道新聞』2021年3月13日朝刊。

(9)「歴史伝える役割の発揮を 国立アイヌ民族博物館に要望書 白老アイヌ協会」『苫小牧民報』2021年4月1日。

3.2. 活動の評価

ウポポイの活動の総括や評価について、開業時、開業から半年後と一年後を大きな区切りとして各紙は特集を組んでいる。

（1）開業時（2020年7月12日）

ウポポイの開業時には政府関係者の発言に注目が集まった。特にアイヌ民族が差別されてきた歴史について「価値観の違い」とした発言（萩生田光一文部科学相（当時））のようにアイヌ民族への配慮を欠く発言があるなど、ウポポイで差別の歴史を発信することに消極的な政府の姿勢が伝えられた[10]。この他、ウポポイ設立を含めた近年のアイヌ政策についても東京五輪をにらんだ多様な価値観を尊重する姿勢を国内外にアピールできる読みが政府にあると報じるものもあった。全体的に、政府のウポポイに対する「本気度」に疑問を投げかけ、差別の歴史を真摯に反省しない態度や観光的な側面を強調しすぎることに懐疑的な記事が多い。また、ウポポイの開業による先住民族の権利回復の議論の前進を期待し、言語復興や差別の歴史を正しく伝える役割を強調するものも目立った。

（2）半年後（2021年1月12日）

開業から半年後の2021年1月12日前後の記事は、ウポポイの入場者数が19万六千人だったことに対し、他の国立博物館と比べて「感染症拡大の中で健闘した結果」だと報じている[11]。このほか、同化政策や差別の歴史を背負う先住民族アイヌや伝統文化への理解促進という「本質的活動」の不十分さを指摘する声を取り上げ、ウポポイがアイヌ民族にとって求心力のある存在にいまだ成り得ていないという課題が指摘された[12]。これに加え、白老町民のウポポイへの関心度の低さも報じられた。ウポポイ開業後、ウポポイ一回分の入場券、ないし年間パスポートに交換できるはがきが白老町民に送付された。しかし町民パスポートの申請は三割止まりで、約五千人の配布にとどまった。2021年1月7日の戸田安彦・白老町長の会見では、ポロトコタン（旧アイヌ民族博物館）の頃と比べ、気軽に出入りできなくなったという声も伝えられ、友の会をつくったり、施設内でボランティア活動をしたりする仕組みなどを提案していきたいとした[13]。

（3）一周年（2021年7月12日）

開業から一年後の2021年7月12日前後の記事では、ウポポイの入場者数が約25万人だったことに対し、「政策目標の四分の一の数」であることが強調された。25万人の入場者のうち国立アイヌ民族博物館の入館者数は約19万人だった。来場者のうち小中学校や高校の

(10)「『差別とひとくくり』違和感　ウポポイで文科相発言」『北海道新聞』2020年7月10日夕刊；「萩生田光一文部科学相　アイヌ歴史で『価値観の違い』」『苫小牧民報』2020年7月11日。

(11)「ウポポイ共生の森『開業半年 逆風でも健闘』」『北海道新聞』2021年1月12日、「ウポポイ開業半年 コロナ禍でも健闘」室蘭民報、2021年1月14日

(12)「開業半年 見えた課題 本質的活動 問われる真価」『苫小牧民報』、2021年1月12日

(13)「入場無料年間パス 申請３割にとどまる」『苫小牧民報』、2021年1月28日

修学旅行のコースとしての利用も多く、2020年度は643校(約五万人)が訪れ、2021年7月7日までには797校(約七万八千人)からの予約が入るなど、児童生徒の教育の場としての存在感を高めているとした。

一年間の活動は、主にウポポイ職員からの視点、白老町の視点、アイヌ民族の視点でまとめられていた。北海道新聞「ウポポイのいま　1年の歩み」(14)、苫小牧民報「ウポポイ1年成果と課題」(15)や「開業1年 ウポポイができて」などの特集が組まれた。また、室蘭民報は「ウポポイ希望の2年目へ」で、「白老観光」、「修学旅行」、「登別観光」をテーマにウポポイの開業効果の各地・各分野への波及をまとめた(16)。これらの記事は各社ごとの特徴が出ているが、主な報道内容は下記の三つの傾向にまとめることができる。

一つは、ウポポイの文化伝承や発信の役割を評価するものである。北海道新聞の「上：発信」は、「文化伝承に一定の成果」と小見出しを出し、舞踊などの文化伝承活動に関わるウポポイ職員の意識や修学旅行生の反応を伝え、集客力を生かした発信という面で一定の成果を上げたとした。また、同紙の「下：継承」はウポポイでアイヌ文化の継承に携わる職員のインタビューを通して、文化伝承を担う自覚と責任感を意識した職員や、技術力向上を目指す職員の姿が伝えられた。一方、苫小牧民報では、ウポポイの設立により白老の文化継承の場所が失われてしまったとする山丸和幸氏の声が伝えられ、地元の文化継承に課題が生じていることを報じた。

二つめは、ウポポイ(主に国立アイヌ民族博物館)の差別などの「負の歴史」の説明不足を指摘するものである。前述の北海道新聞の「上：発信」は、先述のアイヌ文化の発信力や文化伝承の役割を評価する一方、アイヌ民族の歴史や文化を多角的に捉え、伝える意味では課題があるとし、明治以降の同化政策などの差別や格差につながる「負の歴史」を巡る展示内容の説明不足やアイヌ民族自身の発信の少なさを報じた。苫小牧民報も「開業1年 ウポポイができて③」で、政府がアイヌ民族に苦難を強いた歴史を正しく伝えるべきだとする貝澤耕一氏の声を伝えている(17)。

三つめは、ウポポイの開業により白老町の経済にどのような影響が出ているかを報じ、「開業効果」が見えづらいことを指摘するものである。北海道新聞の「中：波及」、室蘭民報「ウポポイ希望の2年目へ」の「白老観光」では、白老町へのウポポイ開業効果の成果と課題が示された。ウポポイ開業により町の観光客数は過去五年間で最多の177万四千人となり、日帰り客が前年比14.8%増の171万六千人と大幅に増えた。しかし宿泊客は白老町の統計史上最も少ない前年比43.2%減の五万八千人となった。また、ウポポイ来場者の95%が乗

(14)「ウポポイのいま　1年の歩み」『北海道新聞』、「上:発信」2021年7月13日、「中:波及」(7月15日)、「下:継承」(7月16日)。

(15)「ウポポイ1年　成果と課題」『苫小牧民報』、「上」(2021年7月12日)、「中」(7月13日)、「下」(7月16日)。

(16)「ウポポイ希望の2年目へ」『室蘭民報』2021年7月13日。

(17)「開業1年　ウポポイができて③」『苫小牧民報』2021年7月28日。

用車を利用しているため、白老町内の商店街や各所を結ぶ町運営の循環バスの乗車率は数％ほどとなった。ウポポイの開業効果が見えづらい現状が伝えられるが、アイヌ文化関連の商品が数多く誕生するなど地域の取組が広がっているとした。

以上が、ウポポイの活動に関する報道記事の部分的な傾向である。

3.3 ウポポイに寄せられた意見

次に、ウポポイについて利用者から寄せられた意見に関して、開業前後の意見の傾向について述べておこう。開業前後にウポポイに寄せられた意見については、各紙の特集「アイヌ民族　ウポポイを思う」(2020年5月11日～2020年5月23日、苫小牧民放)、「ウポポイとわたし」(2020年7月2日～2020年7月21日、北海道新聞)などがある。全てインタビュー記事で、道内外のアイヌ民族、アイヌ文化にゆかりのある人物(地元の企業関係者、博物館関係者など)がウポポイに寄せる思いを語っている。これらの意見を大別すると、以下の七つに分けることができた。部分的ではあるが、一部を引用する。

i) アイヌ文化の振興、発展の拠点としての発信力を期待する声。
ii) 施設としての今後の方向性を問う声。
iii) ウポポイから各地のアイヌ文化への関心を呼び起こす役割に期待する声
iv) アイヌ民族の文化・歴史(差別[の歴史]を含む)を伝え、理解を深める教育施設としての役割を期待する声。
v) 慰霊施設を含めたウポポイの設立自体に対する懸念、否定的な声。
vi) 地元のアイヌ文化伝承の場所が失われることに複雑な思いを抱く声。
vii) 地域振興(経済・観光)を期待する声。

i)は、現在もアイヌ民族が「自分たちのことを語るのはとても勇気がいること」であり、アイヌ文化を紹介するウポポイが開業するのは「時代が変わった証拠」だとしている[18]。「民族や文化に優劣」はなく、「多様性を認め合う重要性」を発信する役割[19]や、若い世代が育ちやすい環境、若手が学び、文化を継承する場として期待を寄せる声がある[20]。

ii)は、ウポポイの今後の方向性について「観光の側面は否定しないが、それだけで突っ走ってはいけない。ウポポイのきらびやかな宣伝には違和感を覚える」とし、「観光だけ、金もうけだけの施設にしてはいけない。事実と懸け離れたアイヌを見せるようではいけない」「誰の何のための施設なのか」を問う声[21]がある。また、アイヌ文化の伝承、言語の継

(18) 木村マサエ「ウポポイとわたし⑨　悔しかった差別　時代は変わる」『北海道新聞』2020年7月10日。
(19) 加藤忠「アイヌ民族ウポポイを思う≪8≫『ようやく』感慨と期待」『苫小牧民報』2020年5月23日。
(20) 佐渡日出男「みんなのウポポイ　若い担い手育成の好機」『北海道新聞』2020年4月17日；佐々木翔太「アイヌ民族ウポポイを思う≪7≫ 若手の学ぶ場に　伝統活動活発になれば」『苫小牧民報』2020年5月21日；高野繁広「ウポポイとわたし⑧　触って先人の知恵感じて」『北海道新聞』2020年7月9日。
(21) 佐々木義春「アイヌ民族ウポポイを思う≪4≫ 若い力応援する『格好だけ』は駄目」『苫小牧民報』2020年5月14日。

承につながるよう、民族共生象徴空間・ウポポイに研究機関としての役割を期待する声がある[22]。

ⅲ)は、各地のアイヌ文化への関心を呼び起こす役割を指摘している。アイヌ文化は道内だけでも地域によって様々な違いがある。こうした地域ごとに根付いてきたアイヌ文化の重要性を指摘し、「ウポポイに足を運んだのを機に、他の地域のアイヌ文化にも興味を持ってもらえたらと期待しています」とする声がある[23]。また、展示手法について、「寄せ集めて平均的にすれば、どこのアイヌ文化を伝えているのか分からなくなる」といった意見もある[24]。ウポポイが「地域ごとに違う生活文化や作法などを研究し、展示で表現することも重要」とし、「研究機関であるウポポイで若手が積極的に学び、それぞれの故郷での伝承活動を活発化させてくれれば」と地域還元の期待を述べる声もある[25]。

ⅳ)は、アイヌ民族の文化・歴史を伝え、理解を深める役割を期待する声である。特に差別の歴史を修学旅行で訪れる本州の子供たちに正しく伝えたり[26]、自身の家族の経験や現代の苦しさを通して、差別の歴史を正しく伝える事の大切さを強調したりする声もあった[27]。

ⅴ)は、慰霊施設を含めたウポポイの設立自体に対して「アイヌの総意とは思えない」「本当にアイヌのためになるのか」とする疑念や否定的な思いが報じられた[28]。

ⅵ)は、特にウポポイの整備に伴い2018年に閉館した白老のポロトコタン(旧アイヌ民族博物館)との関係について、国立博物館の建設のために白老のアイヌ文化を伝承する場所が失われたこと、それに対する悩みと自分達でやれることをやっていく意気込みが伝えられた[29]。

(22) 萱野志朗「アイヌ民族ウポポイを思う≪3≫ 文化継承につなげて　研究機関の役割に期待」『苫小牧民報』2020年5月13日。

(23) 長谷川義郎「ウポポイとわたし⑩　地名の意味にも触れる観光を」『北海道新聞』2020年7月11日

(24) 山丸和幸「アイヌ民族ウポポイを思う≪1≫『これからがスタート』地域の文化伝承へ決意新た」『苫小牧民報』2020年5月11日。

(25) 佐々木翔太「アイヌ民族ウポポイを思う≪7≫ 若手の学ぶ場に　伝統活動活発になれば」『苫小牧民報』2020年5月21日。

(26) 木村マサヱ「ウポポイとわたし⑨　悔しかった差別　時代は変わる」『北海道新聞』2020年7月10日。

(27) 天内重樹「ウポポイとわたし③　文化伝え共生の道開く」『北海道新聞』2020年7月4日；宇佐照代「ウポポイとわたし⑪　誇りも差別も正しく伝えて」『北海道新聞』2020年7月12日；葛野次雄「ウポポイとわたし⑰　苦しみの連鎖　背景伝えて」『北海道新聞』2020年7月20日。

(28) 木村二三夫「アイヌ民族ウポポイを思う≪2≫ 遺骨の尊厳守って 慰霊施設への集約に憤り」『苫小牧民報』2020年5月12日；葛野次雄「アイヌ民族ウポポイを思う≪5≫ 遺骨集約『土に返れない』アイヌのための施設なのか」『苫小牧民報』2020年5月19日。

(29) 山丸和幸「アイヌ民族ウポポイを思う≪1≫『これからがスタート』地域の文化伝承へ決意新た」『苫小牧民報』2020年5月11日。

４．ウポポイ職員が発信した／発信に携わった記事

開業前のウポポイ職員が携わった新聞記事には、アイヌ文化伝承に取り組む職員によるものが多く、これから「仕事として」文化を学べて紹介・伝承できる環境が整備されたことに対する思いや、その意義について述べている記事が目立つ。ウポポイのアイヌ文化発信拠点としての役割に注目した説明と、中核施設である国立アイヌ民族博物館がアイヌ民族に関する多岐にわたる議論の「闘技場」となることへの期待も、役職の職員から発信された。

開業後の記事については、アイヌ文化のプログラムについての紹介や、注目資料の分析と特別展示のコンセプト紹介と見どころが大半を占めている。これらについては、各紙に特集が組まれ、ウポポイの魅力と職員の日々の業務に関わるテーマやコンテンツが紹介・発信され、記事の特色となっている(「ウポポイのお宝」朝日新聞デジタル、「ウポポイ オルシペ」北海道新聞、「ウポポイの風」室蘭民報、「イコロ　資料にみる素材と技」苫小牧民報)。なお、道内の新聞記事以外にも、ウポポイ職員からの発信は文化誌や学術雑誌、ウェブマガジンなどにも及んできた。これらについては、国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ語の展示解説の試みや、基本展示室の詳細なコンセプト解説、博物館の各施設や、使命についても、より立ち入った説明と議論が行われている。

おわりに

本稿で紹介する資料表は、あくまでも新聞報道を通したウポポイの評価と、ウポポイで働く職員たちが発信してきたメッセージとの類似点と相違点を今後論じるための第一歩として提示するものである。ウポポイ開業から一年半が経つ現在、これまで寄せられてきたさまざまな意見に対して、活字における職員による受認と対応、または応答も見られ始めている。ウポポイの外から寄せられた意見の大きな特徴の一つは、ウポポイ全体の社会的役割や位置づけについての記述である。一方で、第４節で紹介している記事からわかるように、ウポポイ内の職員たちによる発信は、日々の業務にも関わるアイヌ文化と歴史の理解を深め、施設の活動に対して関心を育むためのものが主である。言ってみれば、職員たちの「本業」である。

今後、社会の関心を反映するとともに育成もするメディアとしての新聞における内外発信について論じるためには、この点は見落とすべきではない。なお、現場での体感と展示を基礎的な発信媒体とするウポポイについて外から寄せられた意見に対する受認・対応・応答は、活字とともに、これらを通して行っていくことがあるということも視野に入れる必要があるだろう。

表２　博物館開館前／開館後にウポポイ職員が発信した／発信に携わった記事

開館前					
no.	形式	執筆者など	年月日	題名	新聞紙名
1	インタビュー	佐々木史郎	2016 年 5 月 27 日	国立アイヌ民族博物館　どんな展示に	北海道新聞＿苫小牧・日高（朝刊）
2	インタビュー	佐々木史郎	2016 年 6 月 25 日	国立アイヌ民族博物館の展示構想を練る　佐々木史郎さん	北海道新聞（朝刊）
3	執筆記事	八幡巴絵	2018 年 2 月 10 日	新たな「ポロトコタン」へ	
4	記事	矢崎春菜 山道陽輪 竹内隼人	2018 年 3 月 14 日	文化伝承や期待など提言 象徴空間見捉えシンポジウム ポロトコタンの未来を考える	苫小牧民報（朝刊）
5	記事	新谷史織 伊藤彩花	2018 年 12 月 12 日	違い認め合いながら踊る、生きる	北海道新聞（朝刊）
6	記事	川村久恵	2018 年 12 月 17 日	アイヌ文化 各地で「口承」	北海道新聞（朝刊）
7	記事	村木美幸	2019 年 4 月 24 日	「あと 1 年」準備着々　アイヌ文化　国内外に発信へ	室蘭民報（朝刊）
8	インタビュー	秋山理架 山道ヒビキ	2019 年 6 月 8 日	新北海道ひと紀行 第 20 部　白老・ウポポイで共に生きる①	北海道新聞（朝刊）
9	広告記事	村木美幸 宇梶剛士	2019 年 10 月 7 日	アイヌが歩む。アイヌと歩む。 特別対談	北海道新聞（朝刊）
10	記事	宮地鼓	2019 年 12 月 2 日	函館で「衣文化」講演 国立アイヌ民博研究員の宮地さん	苫小牧民報（日刊）
11	インタビュー	竹内隼人 山道陽輪 小沼史子 そらさん 川上さやか 中井貴規 鈴木紀美代	2020 年 1 月 1 日	見て学び次代に ウポポイ 4 月開業	北海道新聞（朝刊）
12	インタビュー	上河彩	2020 年 1 月 8 日	仕事として学べうれしい	苫小牧民報（日刊）
13	インタビュー	押野朱美 秋山里架	2020 年 1 月 9 日	姉妹で文化に触れ成長	苫小牧民報（日刊）
14	記事	村木美幸	2020 年 2 月 6 日	ウポポイの役割紹介	室蘭民報（朝刊）
15	記事	矢崎春奈	2020 年 2 月 23 日	アイヌ口承の物語朗読 学芸員が文化的背景解説	北海道新聞（朝刊）
16	インタビュー	矢崎春菜	2020 年 2 月 25 日	国立アイヌ民博の矢崎さん講話 物語や価値観解説	苫小牧民報（日刊）
17	インタビュー	金子しおん	2020 年 4 月	苫駒大からウポポイ就職 金子しおんさん アイヌ文化を世界に	北海道新聞（朝刊）
18	インタビュー	山田美郷	2020 年 5 月 2 日	刺繍 手軽に楽しんで	「体感 ウポポイ」 北海道新聞（朝刊）
19	インタビュー	木幡弘文	2020 年 5 月 3 日	手縫いの着物で散策を	「体感 ウポポイ」 北海道新聞（朝刊）
20	インタビュー	秋山里架	2020 年 5 月 4 日	子供に文化の伝承を	「体感 ウポポイ」 北海道新聞（朝刊）
21	インタビュー	佐々木史郎	2020 年 7 月 3 日	アイヌ議論の「闘技場」　初代国立館長が描く博物館像	朝日新聞

22	インタビュー	小沼史子	2020 年 7 月 4 日	手仕事の美しさを見て	「ウポポイを語るアイヌ民族文化財団に聞く」1、苫小牧民報（日刊）
23	インタビュー	山道陽輪	2020 年 7 月 7 日	アイヌ文様を身近に	「ウポポイを語るアイヌ民族文化財団に聞く」2、苫小牧民報（日刊）
24	インタビュー	内田祐一	2020 年 7 月 8 日	現代アイヌ知る契機	十勝毎日新聞
25	インタビュー	石田慈久恵	2020 年 7 月 8 日	ムックリの音色で感情表現	「ウポポイを語るアイヌ民族文化財団に聞く」3、苫小牧民報（日刊）
26	インタビュー	新谷裕也	2020 年 7 月 9 日	伝統食のおいしさ知って	「ウポポイを語るアイヌ民族文化財団に聞く」4、苫小牧民報（日刊）
27	インタビュー	新谷史織	2020 年 7 月 10 日	過去に学び文化を創造	「ウポポイを語るアイヌ民族文化財団に聞く」5、苫小牧民報（日刊）
28	インタビュー	霜村紀子	2020 年 7 月 11 日	アイヌ絵 美術史視点で	十勝毎日新聞
29	インタビュー	矢崎春菜	2020 年 7 月 11 日	文化の多様性伝える	「ウポポイを語るアイヌ民族文化財団に聞く」6、苫小牧民報（日刊）
30	インタビュー	野本正博	2020 年 7 月 11 日	アイヌ文化振興、発展を	北海道新聞（朝刊）

開館後					
31	インタビュー	佐々木史郎	2020 年 7 月 12 日	文化の精神性見て	室蘭民報（朝刊）
32	インタビュー	山田美郷 木村和沙	2020 年 7 月 14 日	アイヌ民族文化財団職員の思い	「ウポポイとわたし」12、北海道新聞＿朝刊
33	執筆記事	矢崎春菜	2020 年 7 月 15 日	アイヌの物語	「ウポポイのお宝」1、朝日新聞デジタル
34	執筆記事	宮地鼓	2020 年 7 月 21 日	アットゥシ	「ウポポイのお宝」2、朝日新聞デジタル
35	インタビュー	野本正博	2020 年 7 月 21 日	文化伝承のステージ	「ウポポイの風①」室蘭民報
36	インタビュー	西條林哉	2020 年 7 月 24 日	人に注目してほしい	「ウポポイの風②」室蘭民報
37	インタビュー	奥山英登	2020 年 7 月 25 日	現代の生活も知って	「ウポポイの風③」室蘭民報
38	インタビュー	常本照樹	2020 年 7 月 25 日	集客と対策を両立 伝統踏まえ国際交流も	苫小牧民報（日刊）
39	インタビュー	藪中剛司	2020 年 7 月 26 日	大規模特別展期待を	「ウポポイの風④」室蘭民報
40	インタビュー	杉山未樹	2020 年 7 月 27 日	樹木案内に注目して	「ウポポイの風⑤」室蘭民報
41	インタビュー	霜村紀子	2020 年 7 月 31 日	蝦夷地の情報 アイヌ絵で	北海道新聞（朝刊）

42	執筆記事	笹木一義	2020年7月31日	アミプ	「ウポポイのお宝」3、朝日新聞デジタル
43	執筆記事	北嶋イサイカ	2020年8月5日	木彫アペフチカムイ	「ウポポイのお宝」4、朝日新聞デジタル
44	執筆記事	内田祐一	2020年8月10日	カムイへ祈りささげる祭壇	「アイヌ民族文化の継承 ウポポイ展示品紹介」1、十勝毎日新聞
45	執筆記事	田村将人	2020年8月11日	子熊つなぐ「イオマンテ」の杭	「アイヌ民族文化の継承 ウポポイ展示品紹介」2、十勝毎日新聞
46	執筆記事	霜村紀子	2020年8月12日	厚岸湖岸の調査で発見	「アイヌ民族文化の継承 ウポポイ展示品紹介」3、十勝毎日新聞
47	執筆記事	大江克己	2020年8月12日	X線CT装置	「ウポポイのお宝」5、朝日新聞デジタル
48	執筆記事	関口由彦	2020年8月14日	民族意識と多様な生き方	「アイヌ民族文化の継承 ウポポイ展示品紹介」4、十勝毎日新聞
49	執筆記事	竹内隼人	2020年8月14日	ヌサ	「ウポポイのお宝」6、朝日新聞デジタル
50	インタビュー	佐々木史郎	2020年8月15日	アイヌ民族が主役の場に　ウポポイの中核　国立博物館の目指す姿	北海道新聞（朝刊）
51	執筆記事	内田祐一	2020年8月17日	暮らしや自然の産物記録	「アイヌ民族文化の継承 ウポポイ展示品紹介」5、十勝毎日新聞
52	執筆記事	田村将人	2020年8月21日	GHQへの書簡	「ウポポイのお宝」7、朝日新聞デジタル
53	執筆記事	中井貴規	2020年8月25日	マレクとイサパキクニ	「ウポポイのお宝」8、朝日新聞デジタル
54	執筆記事	奥山英登	2020年8月28日	展示物の動物たち	「ウポポイのお宝」9、朝日新聞デジタル
55	執筆記事	深澤美香	2020年9月1日	知里真志保のカード	「ウポポイのお宝」10、朝日新聞デジタル
56	執筆記事	藪中剛司	2020年10月7日	知里真志保の日記　差別のまなざしつづる	「ウポポイ　オルシペ」1、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
57	インタビュー	常本照樹	2020年10月11日	ウポポイ　今後の課題を聞く「苦難の歴史　説明改善へ」	北海道新聞（夕刊）
58	執筆記事	北嶋イサイカ	2020年10月21日	文様の縫い方　糸で下絵　手間をかけ作製	「ウポポイ　オルシペ」2、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）

59	執筆記事	小林美紀	2020 年 11 月 11 日	アイヌ語表示　記録参考に新しく作成	「ウポポイ　オルシペ」3、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
60	インタビュー	佐々木史郎	2020 年 11 月 24 日	アイヌ主体の展示を	東京大学新聞
61	執筆記事	宮地鼓	2020 年 11 月 25 日	アイヌ民族資料　高い関心　海外でも展示	「ウポポイ　オルシペ」4、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
62	執筆記事	霜村紀子	2020 年 12 月 9 日	小玉貞良「蝦夷国風図絵」　衣服や器物　特徴とらえ描写	「ウポポイ　オルシペ」5、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
63	執筆記事	山道ヒビキ	2020 年 12 月 23 日	伝統芸能の復興と伝承 積み重ねた成果 次の世代に	「ウポポイ　オルシペ」6、北海道新聞（朝刊）
64	執筆記事	北嶋 イサイカ	2021 年 1 月 9 日	アットゥシ（樹皮衣）　縫い付け方に違い	「イコロ　資料にみる素材と技」3 苫小牧民報
65	執筆記事	大江克己	2021 年 1 月 13 日	資料収集の化学分析　CT 装置で内部を調査	「ウポポイ　オルシペ」7、北海道新聞（朝刊）
66	執筆記事	矢崎春菜	2021 年 1 月 23 日	アイヌ語研究の記録	「イコロ　資料にみる素材と技」4 苫小牧民報
67	執筆記事	荒田ニヌム 山丸ケニ	2021 年 1 月 27 日	口承文芸実演「ネウサㇲアン　ロ」	「ウポポイ　オルシペ」8、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
68	執筆記事	ナアカイ 貴規	2021 年 2 月 10 日	シキナとウッシ　儀礼に活用　用途など紹介	「ウポポイ　オルシペ」9、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
69	執筆記事	竹内イネトプ	2021 年 2 月 13 日	実物資料と CT 画像展示	「イコロ　資料にみる素材と技」5 苫小牧民報
70	執筆記事	古田嶋智子	2021 年 2 月 27 日	伝統的染色技法を再現	「イコロ　資料にみる素材と技」6 苫小牧民報
71	執筆記事	秋山里架	2021 年 3 月 5 日	アイヌ語　聞いて親しむ紙芝居プログラム	「ウポポイ　オルシペ」10、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
72	執筆記事	深澤美香	2021 年 3 月 13 日	山田秀三の『北海道の旅と地名』	「イコロ　資料にみる素材と技」7 苫小牧民報
73	執筆記事	八幡巴絵	2021 年 3 月 17 日	衣服の複製事業　収蔵資料熟覧　技術を再現	「ウポポイ　オルシペ」11、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
74	執筆記事	霜村紀子	2021 年 3 月 26 日	往時の生活知る手掛かり	「イコロ　資料にみる素材と技」8 苫小牧民報

75	執筆記事	山道ムカラ	2021年3月31日	受け継ぐ技　「製品」の形で文化守る	「ウポポイ　オルシペ」12、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
76	執筆記事	北嶋イサイカ	2021年4月10日	複数の技法で構成	「イコロ　資料にみる素材と技」9 苫小牧民報
77	執筆記事	竹内イネトプ	2021年4月14日	先人の技に触れる　彫刻と装飾、科学的に解析	「ウポポイ　オルシペ」13、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
78	インタビュー	新谷裕也	2021年4月18日	ここが聞きたい　ウポポイで調理体験プログラム担当	北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
79	執筆記事	マーク・ウィンチェスター	2021年4月24日	日本初 アイヌ文化大辞典	「イコロ　資料にみる素材と技」10 苫小牧民報
80	インタビュー	竹内イネトプ	2021年4月27日	私のイチオシコレクション	朝日新聞（夕刊）
81	執筆記事	山田美郷	2021年4月28日	手仕事の伝承　民族の誇り、子供たちへ	「ウポポイ　オルシペ」14、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
82	執筆記事	赤田昌倫	2021年5月8日	色が持つ意味と役割　染織品の科学分析	「イコロ　資料にみる素材と技」11 苫小牧民報（日刊）
83	執筆記事	笹木一義	2021年5月17日	探究展示　テンパテンパ　物と伝承者触れ感じて	「ウポポイ　オルシペ」15、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
84	執筆記事	大江克己	2021年5月22日	実情知る手掛かり　金属製品の素材科学分析	「イコロ　資料にみる素材と技」12 苫小牧民報（日刊）
85	執筆記事	茂木涼真	2021年5月28日	伝統的コタン「チセ」　建設技法を後世へ伝承	「ウポポイ　オルシペ」16、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
86	執筆記事	ニトゥレン堀江純子	2021年6月9日	プログラム「コタンの樹木案内」　自然観や暮らし伝える	「ウポポイ　オルシペ」17、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
87	執筆記事	村木イタンキトゥイ	2021年6月27日	ポロトコタンからウポポイへ　旧博物館　改築し活用	「ウポポイ　オルシペ」18、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
88	執筆記事	野本正博	2021年7月8日	ポロトコタン　この土地の記憶　多文化共生を伝える基盤	「ウポポイ　オルシペ」19、北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
89	インタビュー	佐々木史郎	2021年7月10日	佐々木館長に聞く　文化創造の芽生えも　「正しい理解の定着を」	北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
90	インタビュー	佐々木史郎	2021年7月11日	文化の地域性　伝承課題　開業　1年　国立アイヌ民族博物館・佐々木館長に聞く	北海道新聞__苫小牧・日高（朝刊）
91	インタビュー	斉藤基也	2021年7月12日	アイヌ文化発信に成果	ウポポイ1年　成果と課題㊤　苫小牧民報（日刊）

92	インタビュー	佐々木史郎	2021 年 7 月 13 日	アイヌ民族博物館・佐々木館長に聞く「夏休みに期待」	室蘭民報（朝刊）
93	インタビュー	佐々木史郎	2021 年 7 月 15 日	ウポポイ 1 周年　アイヌ文化の地域性発信　佐々木館長に聞く	北海道新聞＿苫小牧・日高（朝刊）
94	広告	常本照樹 戸田安彦	2021 年 7 月 20 日	北海道白老町「民族共生象徴空間　ウポポイ」開業 1 周年	苫小牧民報（日刊）
95	執筆記事	矢崎春奈	2021 年 7 月 22 日	ゴールデンカムイ特別展　作中の民具並べ文化紹介	「ウポポイ　オルシペ」20、北海道新聞＿苫小牧・日高（朝刊）
96	執筆記事	マーク・ウィンチェスター	2021 年 8 月 6 日	「ゴールデンカムイ」とアイヌ民族の歴史　日露戦争や強制移住説明	「ウポポイ　オルシペ」21、北海道新聞＿苫小牧・日高（朝刊）
97	執筆記事	深澤美香	2021 年 8 月 18 日	「ゴールデンカムイ」特別展　22 日まで　「聖地巡礼」のきっかけに	「ウポポイ　オルシペ」22、北海道新聞＿苫小牧・日高（朝刊）

新聞以外の媒体による発信						
no.	形式	執筆者など	年月日	題名	収録誌／出版社	頁数
1	論文	Kazuyoshi Sasaki	2019 年 7 月	The social challenge faced by the National Ainu Museum and the activities to prepare for its opening	Proceedings of CECA Asia-Pacific Regional Meeting', National Folk Museum of Korea ed	
2	執筆記事	関口由彦	2019 年 7 月 1 日	（巻頭言）国立アイヌ民族博物館とアイヌ文化の'いま'	『民俗学研究所ニュース』No.125	
3	インタビュー	北嶋由紀	2019 年 11 月 1 日	アイヌ文化の継承を	NHK	
4	論文	国立アイヌ民族博物館設立準備室	2020 年 4 月	国立アイヌ民族博物館の展示概要について	『月刊　文化財』4 月号（679 号）	10-17
5	執筆記事	立石信一	2020 年 4 月 15 日	国立アイヌ民族博物館 2020 ──開館を目前に控えて	artscape キュレーターズノート	
6	論文	佐々木史郎	2020 年 6 月	文化多様性とミュージアム：国立アイヌ民族博物館の試み	『文化資源学』18	51-60
7	論文	大江克己	2020 年 6 月	寒冷地におけるアイヌ民族資料の保管と虫菌害の防除対策について	『文化財の虫菌害』No.79、公益財団法人文化財虫菌害研究所	8-16
8	インタビュー	佐々木史郎	2020 年 7 月 30 日	国立アイヌ民族博物館の将来像は？	NHK	
9	執筆記事	佐々木史郎	2020 年 9 月	五感で接するアイヌ文化	『月刊みんぱく』44-9、国立民族学博物館	2-3
11	執筆記事	小林美紀	2020 年 9 月	ウポポイでのアイヌ語表示・展示解説の試み	『月刊みんぱく』44-9、国立民族学博物館	4-5

12	執筆記事	山道オンネレク	2020 年 9 月	次世代に伝えたい伝統文化	『月刊みんぱく』44-9、国立民族学博物館	6-7
13	執筆記事	大江克己	2020 年 9 月	後世へ資料を引き継ぐための展示・収蔵環境の整備	『月刊みんぱく』44-9、国立民族学博物館	8-9
14	論文	深澤美香 矢崎春菜	2020 年 9 月	アイヌ語の継承にむけて	『月刊社会教育』64 巻 10 号、旬報社	27-30
15	論文	佐々木史郎	2020 年 10 月	先住民族と歩む博物館を目指して ——国立アイヌ民族博物館の開館に寄せて	博物館研究、55(10)(No.629)	2-5
16	執筆記事	国立アイヌ民族博物館	2020 年 10 月 12 日	よくある質問ーアイヌの歴史・文化の基礎知識ー	国立アイヌ民族博物館ホームページ	
17	インタビュー	八幡巴絵	2020 年 11 月 27 日	アイヌ文化を知ろう	NHK	
18	執筆記事	田村将人	2020 年 12 月 15 日	国立アイヌ民族博物館の基本展示で伝えたいこと	artscape キュレーターズノート	
19	執筆記事	Mio Yachita	Dec-20	The Opening of UPOPOY National Ainu Museum and Park	ICME NEWS ISSUE 91	
20	図書	笹木一義	2021 年 2 月	多民族共生に向けて博物館ができることー国立アイヌ民族博物館の開館とその社会的役割	小川義和・五月女賢司（編著）『発信する博物館ー持続可能な社会に向けて』ジダイ社	94-117
21	執筆記事	佐々木史郎	2021 年 2 月	国立アイヌ民族博物館の概要と使命　アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンター	『文部科学教育通信』501 号	4-5
22	論文	笹木一義	2021 年 3 月	カンピソㇱ ヌカㇲ トゥンプ（国立アイヌ民族博物館ライブラリ）の開設	明治大学（編）『明治大学司書・司書教諭課程年報』，明治大学司書・司書教諭課程，No.21	29-30
23	執筆記事	深澤美香	2021 年 3 月 15 日	国立アイヌ民族博物館とアイヌ語	『K』no.001	35-37

出典：筆者作成